

平成24年度在宅医療連携拠点事業
成果報告会 ～取組発表～

地域包括ケアを
目指した拠点事業



横手市地域包括支援センター
在宅医療連携推進担当

横手市日常生活圏域ごとの医療の特徴を意識した事業展開

- 東部地域(横手・山内)は、急性期として2病院があるが、回復期病床がない。退院後のショートステイ利用が増加している。
- 西部地域(大森・大雄・雄物川)は、合併前から市立大森病院を中心に健康の丘おおもりで地域包括ケア体制が確立している。
- 南部地域(増田・十文字・平鹿)は、地域に病院がなく、開業医による往診や訪問診療が多いため、三地域の中で在宅看取り率がもっとも高い地域になっている。

(1) 「在宅医療に関するアンケート調査」を対面方式で実施

調査対象機関	調査対象数	回収数	回収率	実施期間
病院	3施設	3	} 97.6%	} 5月
診療所	39施設	38		
歯科診療所	41施設	41	100.0%	11月
薬局	54施設	51	94.4%	12月
訪問看護ステーション・センター	5施設	5	100.0%	7月
介護施設	69施設	58	84.1%	9月
居宅介護支援事業所	33施設	32	96.9%	10月
計	244施設	228	93.4%	

効果：顔の見える関係づくりの第一歩
課題の抽出

(2) 在宅医療に関する地域住民への普及啓発

- セミナー（6月23日） 参加人数230名
シンポジウム（10月28日） 参加人数250名
- 出前講座：民生児童委員協議会等12か所
介護施設1か所、その他2か所
参加人数503名
- 広報で特集掲載, HP
- 「かかりつけ医普及チラシ」全戸配布

効果：現状・課題の共有、普及啓発

(3) 組織別情報交換会の開催

関係機関	内 容	参加数
小規模多機能・老健施設	現状と24時間体制について	12名
訪問看護ステーション・センター	現状と課題	13名
南部地域居宅介護支援事業所 歯科医師会	口腔ケア推進の取組み	37名

効果：在宅医療、ケアについて目標共有

(4) 医師会、歯科医師会と 多職種連携強化

- 夕暮れ勉強会開催（18：00～19：30）

【目的】医師会、歯科医師会、及び地域医療を支える多職種連携を強化することが目的。

医師会、歯科医師会、薬剤師会の全面的な協力のもとに地域包括ケア体制や住み慣れた場所で、その人らしい最期を迎えられる看取りの仕組みについて考えを深めることができた。

（延べ参加人数 546人）

日程	テーマ	講師
8月	地域医療連携の最近の傾向	市立大森病院 院長 小野剛先生
9月	在宅での緩和ケアについて	高橋内科医院 院長 高橋和彦先生
10月	在宅医療～私の流儀～	高橋医院 院長 高橋 晶先生
11月	在宅を支えるキックオフ	曾根医院 院長 曾根純之先生 石成歯科医院 院長 石成 勉先生
12月	横手市の在宅医療を考える	西成医院 院長 西成 忍先生 赤沢歯科医院 院長 赤澤茂樹先生
1月	在宅医療をすすめる作法	おぎわら診療所 所長 荻原忠先生 ほそや歯科医院 院長細谷養幸先生
2月	これまでの往診・訪問診療を振り返って	井田内科胃腸科医院 院長井田隆夫先生

効果：顔の見える関係づくり、話し合いの場づくり、連携強化、人材育成

職種別	参加延人数	職種別	参加延人数
医師	27	介護職	67
歯科医師	16	事務職	61
看護師	62	その他	52
理学・作業療法士	5	精神保健福祉士	7
ケアマネジャー	201	MSW	8
保健師	40	計	546

(5) その他の活動

- 地域ケアネットワーク会議 月1回開催
- 地域ケア推進関係者会議 年2回開催
- 健康の丘おおもり合同勉強会「テーマ：施設での身体拘束と看取りを考える」(48名)
- 病院医療連携室・相談室との連携強化(退院カンファレンスに出席、訪問等)
- 施設、自宅看取りガイドラインの作成
- 医療福祉連携ガイドの作成
- 地域支え合いのまちづくり
- 地域ケア会議の充実 ・ 認知症対策の充実

効果：合意形成、地域包括ケア体制の整備



おわりに

- 住み慣れた場所で、自分らしい生活が送れるようにするため、多職種連携による最期の看取りまで関われるシステム（地域包括ケア体制）を市民視点で構築する。切れ目のない医療、福祉介護サービスの普及促進と意識改革が重要課題である。

